

令和 4年度

事務事業評価表 (令和 3年度 の実績評価)

記入年月日
令和 4 年 4 月 21 日

事務事業名		真壁図書館管理運営事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	020203000643
						単独/補助	単独	所属課	090601
政策体系	総合計画の施策名	0202 生涯学習・芸術文化活動の推進							生涯学習課
	政策名	02 生きがいを育む学びのまちづくり						課長名	
	施策名	02 生涯学習・芸術文化活動の推進						グループ	生涯学習G
	手段名	03 ③生涯学習・文化施設の活用						担当者名	
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	10	05	02	05	00	真壁伝承館管理事業		
						単年度繰返し (平成16年度~)			
法令根拠						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
なし(真壁伝承館内図書室扱い)									

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
真壁図書館の運営及び施設維持管理を行い、市民の知の拠点としての図書館機能の維持向上に努める。施設人員…行政専門員2名、会計年度任用職員2名(うち司書2名) ○運営業務 【資料受入】購入資料(本、雑誌、DVD)にコーティング等の処理、書架配列 【利用者登録】利用者登録・図書利用カード作成 【貸出返却】貸出受付、返却本受領確認、再陳列、貸出中資料の予約登録 【督促】貸出期間を1週間経過した未返却資料の督促 ○維持管理業務 【委託】システム保守(毎月)、ICゲート保守(2月)、エレベーター保守(6月) 【使用料賃借料】システム使用料、機器リース(毎月)、書誌情報(3月)	【運営業務】 ・資料の選本発注、受入、配架 ・相互貸借(リクエスト図書が買えない時、他館と相互に貸借) ・利用者数の統計(貸出状況等) ・環境整備(館内の見回り、書棚整理、簡単な清掃) 【維持管理業務】 ・各種支払伝票起票(人件費、消耗品、工事費等) ・消耗品の購入、補充 ・委託契約3件、使用料及び賃借料3件(3月中に次年度契約) ・修繕、工事の発注

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
・ 図書の選本発注依頼・図書受入配架 ・ 相互貸借・利用者数の統計 ・ 支払伝票起票 ・ 委託契約事務 ・ 環境整備 ・ 図書館システム等の更新	購入冊数	冊	1,480.00	1,132.00	1,100.00	1,100.00	1,100.00
	寄贈図書冊数	冊	163.00	277.00	250.00	250.00	250.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
桜川市民、近隣市民	利用者数	人	11,000.00	10,627.00	13,000.00	13,000.00	13,000.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
豊かな心を持ち、充実した生活を送ることができる	貸出冊数	冊	33,100.00	31,823.00	32,000.00	32,000.00	32,000.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費内訳	02年度(実績)	03年度(実績)	04年度(計画)	05年度(目標)	06年度(目標)	期間限定総投入量
県支出金	千円	0	0	0			
地方債	千円	0	0	0			
使用料・手数料	千円	0	0	0			
その他	千円	0	0	0			
一般財源	千円	13,620	11,234	12,988			
事業費計(A)	千円	13,620	11,234	12,988			
正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人			

事業費の内訳	03年度事業費 実績(千円)			04年度事業費 予算(千円)		
	01 報酬	3,364		01 報酬	4,880	
03 職員手当等	695		03 職員手当等	873		
07 報償費	18		07 報償費	24		
08 旅費	206		08 旅費	246		
10 需用費	1,110		10 需用費	1,169		
11 役務費	114		11 役務費	69		
12 委託料	1,060		12 委託料	1,175		
13 使用料及び賃借料	2,809		13 使用料及び賃借料	2,824		
17 備品購入費	1,858		17 備品購入費	1,728		
	合計	11,234		合計	12,988	

事務事業名	真壁図書館管理運営事業	事務事業No.	20203000643	所属課	生涯学習課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
図書委託事業として開始。平成9年よりボランティアとして協力いただいた方を、平成16年度から委託事業としてシルバー人材センターからの派遣で図書事務に従事、平成23年度で委託事業終了。平成24年度から真壁伝承館内の真壁図書館運営事業としてスタートした。平成23年度から図書システム導入により、貸出、返却、資料管理等スムーズに行えるようになった。平成28年10月で図書システム機器等契約更新し機器はリースとし、読書手帳を導入した。令和3年10月再度システム更新。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
平成23年度の9月より真壁伝承館真壁図書館として運営している。利用者からは、システムによる図書の貸出や予約、リクエスト、資料の提供などスムーズに行えているため大変好評である。また、平成28年度10月からの読書手帳導入も好評である。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 乳幼児から高齢者まで利用ができる図書館の運営は、生涯学習の場として結びつくものである。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 図書館は住民のあらゆる資料要求に応える、地域の資料センターとしての役割を担うものであり、住民全ての知の拠点として欠かすことのできないものであることから、市が整備・運営するのは妥当である。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 図書システムの導入により、インターネット環境があれば資料検索が行える。現在は、真壁図書館のみのシステム稼働であるが、令和6年に開館予定の新図書館とシステム連動し、より良い図書館運営が可能となる。
公平性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 図書館として多くの利用者が来館し、滞在時間も長くなっている。2階学習室・閲覧室は、一般・学生等の利用しているため、廃止・休止の影響は大きい。
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合)
	<input type="checkbox"/> 余地がない 具体的に手段、事務事業名 一般的に幅広く身近に利用できる施設がないため統廃合・連携はできない
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない 利用者の求める資料や情報を幅広く提供するためには資料費等の削減余地はない
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 資料提供や図書の貸出等無償であることから公平である

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	閉架書庫の容量が少なく蔵書が飽和気味であるため、定期的に蔵書の見直し(処分)を行う必要がある。 令和2年度より電子図書館システムを導入し、コンテンツ購入費3,270千円を計上したため、書籍の購入費が約2,000千円⇒1,500千円に減額となった。																					
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状維持	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																					
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 新図書館に向けて実施設計等を行っている状況。新図書館と情報共有を行いより良い図書館運営を実施できるよう、職員の適切な配置を考慮すべきである。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下			×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持			×																		
	低下			×																		
(6) 事務事業優先度評価結果	⑧																					
成果優先度評価結果	⑧																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/> 確認